女學雜誌

第二百二十五號目次

社説　細君内助の辨(中)

論説　女子に撰擧權を與ふべし

批評　國會第一期の政治意見○自撰投票論○日本評論の歐洲文學○詩仙を讀む○英文日光案内○ダヒット、リーヴ井ングストン氏の傳○心のかゝみ

雜録　英國上流の貴婦人一日間のくらし方○西行の歌○暑中見舞○日は出でぬ○神を畏るゝといふ事○神童は親の爲に殺さる○芭蕉の句○深夜の星○小松崎古登女を訪ふ
うき世

小説　女學子に與ふ

寄書　政治は海邊の細砂に似たり○高山偉人を生ず○彼岸○漠々○官臭留守居役と傳道職○同もと批評家と爲らん○新政社集會法に對し○魯士亞政府に對し○今の事業○黴蟲自から縛す○虎列剌病豫防の心得○米國訓盲院○亞片禁止同盟會○寄宿舍○女散髪師○男女共和國○其他十三件○救濟記事○廢娼記事

時事　○通信○週報

—Finds tongues in trees, books in the running brooks, sermons in stones, and good in every thing.—Shakespeare.

婦人政談傍聽論

動かざる山の如く、變はらざる水の如きは、女學雜誌が好みする所ろ也。彼は改良の二字を甚だ嫌惡す、安んぞ改良すと謂はん。但だ第十二巻本號を以て畢るが故に、次號は更に一段改進の初歩とあるべし。

貴婦人の一日行

八月九日發兌

第二百廿五號

一冊定價六錢

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 225. AUGUST, 9TH, 1890.

第二百二十四號目次

Contents

EDITORIAL:—Wife, a Helpmate.
LEADING ARTICLES:—Women must be allowed to vote. (Mr. Brussels.)
CRITICAL NOTES:—"The First Term of the Parliament." "On voting for seit." "European Literature." ("Niphon Hyoron") On Reading "The Poet." Mr. Ban's "New Guide to Nikko." David Livingstone. The Mental Mirror.
MISCELLANEOUS:—One Day in an English Lady's Life. Saigyo's poems. Compliments of the Season. The Moon has Come Out. The Fear of God. Prodigies Slain by Parents. Basho's Sonnets. Midnight Stars. An Interview with Mr. Komatsuzaki.
NOVEL:—"Ukiyo."
OPEN LETTERS.
CONTRIBUTED ARTICLES.
NOTES AND NEWS.
CONCERNING WOMEN.

社説 妻君内助の辨
論説 女子教育の私見を述て巌本兄に寄す(寺尾熊三)
批評 春江文亮○明治學院に對する記事(閨房の嘆き(末松演説)
雑録 懇親問答○女子文學者○カウパーの詩○小松崎古登女を訪ふ○深夜の星○口に毒ある人○讀め口庭
小説 うき世
寄書 華族女學校卒業式に於ける、學監下田歌子女史の演説○思ふまゝ
時事 新らしき集會及政社法○是に攻撃乎○研究せんとな欲す○鍋を洗ふの如し○博覧會婦女人製割の場所○子守學校○倶樂部○結婚特許統計○世間忙々○何處に同志者ある○此頃の新聞紙○雑報の通り下○ギウキ女史○ピアノ及びオルガン○禁酒上演附○フヰーセツト女史の名聲○卒業女學生○婦人禮風會○梅和女學校○有為特學校○女學校と師範學校女子部○青森女學校○長崎婦人會○萬國禮風大會○ステッド氏の醜行○レビツト夫人○昭昭記事○通信○瀬報

WOMEN IN JAPAN.

I.

According to the 53rd Art. of the new law which concerns assemblies and political organizations, women are included among students, teachers and minors among those who are excluded from political assemblies. Considerable excitement has followed the promulgation of this new law. The W. C. T. U. ladies, the "Hakuhyo Association," as well as Mrs. Kobayashi, a noted women in politics have alike appealed to the government for reconsideration. Mr. Iwamoto is intending to seek interview with Count Yamagata on the subject after asking the opinion about the question some influential gentlemen in the city.

II.

At a place where they negotiate for marriages in Tokyo they receive about 1000 applications a year. The records for the first half of this year reads as follows:—

Candidate for wife	190
" " husband	375

Owing to kind auspices, 90 pairs have united their fortunes in happy wedlock. These people are from all classes and conditions of men, from the nobles to those in the lowest walks of life.

III.

The English paper reports of our Empress' devotion to piano music under two German instructors. The rapid progress of musical taste in Japan is testified by the fact that there are over 2000 pianos in the capital, about 40000 in the other parts of the Empire. The organs can hardly be enumerated.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百二十五號 明治二十三年八月九日發兌

社説

女子の政談傍聽

集會及政社法第四條及び第二十五條を見よ。

吾人謹んで之を熟讀するに、何分にも解説しがたきもの少なからず。今の政府の嚴重なる且つ行届きたる取締方にては、先づ陸海軍の軍人、及警察官の類ひを政談政社に加はらしめざるは尤もの事なり、何んとなれば彼等は政府の役人にして特に政府の爲めに治安を保護するの任を擔ひ居れば也。次に、官立公立學校の生徒並に教員を禁ずるも其理なきにあらず、何んとなれば、彼等は政府には國家の保護を蒙むる所ろの學校に就職もしくは就學するがゆへに、表面上其の政府に反對し又は國家の治安を防ぐる如きとありては、凡俗の道理に訴へ相濟まざるの感あるがゆへ也、之も道理ありとすべし。次に、私立學校の生徒及び教員を禁ずると云ふは、前の筆法を以て解釋しがたきに似たり、左れど教員は一圖公平に學問を敎ゆべきものなり、生徒は淡薄無邪氣に學問を學ぶべきもの也、然るに若し相率ひて政談を傍聽し倘且つ政黨に加入するが如きとありては、敎授上學問上不用なる政黨僻を起し、純善なる學問の爲めに損害多かるべしとでも謂ふの理由か、當らずと云へども遠かるまじ、今の信切にして繁忙なる政府の眼中には恐らく此邊の覺悟あるとならん、吾人は未成年者を禁ずるの一條も亦た大抵此に類するの處置と信じ、大略此種の解釋を呈出して政府の深意を揣摩し、密かに政府の用心深きに感歎するもの也

其他公權なきものが政社に加入しがたき一條の如きは言ふ迄もなく尤もの事なり。左れど玆に沈思三慮して倘ほ其説を得ず、轉輾反側していよいよ怪疑に堪へざるものは、女子を禁じて之に加入せしめずと云ふの一條是れ也。

中に就き、女子が政社に入るとを禁ずるの一部は、吾人少さか之を解するとを得べし、別段喜んで解釋するにあらねど今の時世に於ては、法律平衡の上より或は左るとも然るべしと容し置くなり、其說すでに本誌第二百二號に掲載したり、同感同激の士もし一讀を賜はらば幸甚なり。

然れども一切の女子政談を聽くとを得ずと云ふは抑そも何等の理由あるに因る乎。

女子は政談などを聞くべきものにあらずと云ふ乎。可きもの

にあるか、あらぬかは暫らく論ぜず、婦人もし男子を内助し其憂ひを解き其勵みを勵まさんと欲せば、勢ひ政治公共の事をも承知し置かずんばある可らず、良人が國家の事に深慮するとき、細君は大根の事の外か辯ぜずとありては、内助の効何處にか擧らん、細君をして良妻たらしめんには政治上の感想なかる可らず、政治上の感想なかる可らざるものに政談傍聽の自由を禁ずるは、擦々政府の仁惠と云ふべき乎、婦人は激し易く、迷はされ易し、故に先づ之を政談より遠ざくべしとの意味か、如此きは、目下の事情を知らず、目下の人情を知らず、目下の日本女子を知らざる迂僻極愚の見解にして、日本政府の政治家などが常々信認すべき者に非ず。男子に對しては條件づき也。故に實際の取締上大目に見すぐし、法律上には政府の威嚴を示して万一の變に備へ、平常は頗ぶる寬大にして言論の自由を重んずと云ふ、是れ良政府の宏量と云ふべし。然るに女子に對しては一切の女子と云へり、政府實際に於て何如に寬容せんと欲するも亦得可らず、吾人は政府の仁の爲めに之を惜しみ、亦た其信用の爲めに大ひに憾みとす。

特に人間の或る階級のものに對して之を禁ずるは可也、總ての人間即はち女子と云ふ一切の人間に對して悉とく之を禁ずと云ふは頗ぶる不穩當也。村の愚なる作左衛門は可也、然し乍ら日本のウイツードは不可也と云ふ、玆に驚ろくべきの解釋を惹起せざるを得す。

此事に付きては總ての新聞紙皆な不同意を唱へたり、即はち與論悉々く不贊成なるを知るべし、與論の悉々く不贊成なるは、女子に之を許すとも決して實際の害なきことを公認公許するもの也、吾人も亦た何の必要によりて此一條を新生したるやを疑ふ。米の合衆國にワイヲミンと云ふ洲あり、二十一年前與政治上純然たる男女共和たり、而して何の不都合もなし、アンソニー孃、及びスタントン女史其實現を錄して云く、吾等其の結果の意外なるに驚ろきたり、之が爲めに婚姻も減ぜず、之が爲めに搖籃(子供を寢かし付くる)を棄つるものあく、之が爲めに靴足袋を州の入費にて繕ふと云ふことも出現せず、婦人は公共國家の事を談じて、人の風評を爲さず、女子が投票し且つ撰ばるゝの力量なしと云ふ俗論を笑ひ合ひ、先つ姿等を見よと言ひ居れり。

日本に於ては政治上男女共和たれよと云ふにあらず、たゞ政談の傍聽を許せよと云ふのみあり、識者深く猛省すべし。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

細君内助の辨（中）

五。陰陽

當に妻、夫を助くると言はず、妻の夫を助くるが如く、夫も亦た妻を助くべし、即はち彼等互ひに半身となり、相合して一躰の仕事を爲す、當に朋友中の朋友、家族中の家族たるべし。左れば、其相助くるは、其の尤も多く助けを要するの處ろに於て相助け、二人決して相離るゝと能はざるの處ろに於て相合すべし、之を眞實無上の助けとは云ふ。

彼の朋友を見よ、朋友の極めて仲好きは、氣質相反するの間柄にあらぬは無し。快活の人は、沈鬱の人と友たり。激烈の人は温厚の人と友たり。多辨の人は重默の人と友たり。たとへば、人の性陰陽の兩性を具す、想じて燦らかに目立ち表に現はれて烈しく且つ樂し氣なるは大方陽の性なり、密めきて隱れ万事内環にして沈み易く鬱し勝なるは固より陰の性也、故に陰と陰とは相反し、陽と陽とは相逆らふ、未だ其の異性の親和し易きに及ぶとあらず。理學者が物につきて辨ずる所ろ、心理學者も亦た人に於て然りと云ふなり。

男は陽の性に富み、女は陰の性に富めり、固より女に男らしきものあるが如く、男にも女らしきものあり、之れ陰陽兩性の錯雜混淆したるものありと云へども、其の大數の懸隔する所ろにつきて之を評すれば、男は依然として陽なり、女は純然として陰なり。

故に男女の相親しみ易きは其天性なり、而して夫婦は實に親和の極點に達す。其相助くるの狀、亦當に陰陽の相異なるが如くなるべし。夫外に出でゝ働らき、妻内に居て働らく、之れ内外に於けるの陰陽あり。夫大躰に付きて考へ、妻細目に付きて慮ばかる、之れ事務に於けるの陰陽なり。夫激し易く奔逸し易し、妻保守に傾むき退忍を敢てす、之れ氣性に於けるの陰陽なり。夫は大木の如く聳立して而して俄然倒るゝとあり、落膽の念ひ天の落つるに似たり、妻は青草の如し滋ほひて普ねし、高く伸びずと云へ共淺く根ざすとなし、常に深々として能く育ふ、之れ發達に於けるの陰陽あり。彼等互ひに如此く相違す、故に此等相違の點に於て陰陽好調し、其の異所に於て相合し相ひ睦助すべし。

六。相助くるの處

故に、男女の相助くるや、男、男を助くる能はず、女、女を助くると能はざるの所ろに於てす。彼等互ひに相欠く能はざ

る也。而して妻の夫に對するは、更に一等出し、千万の他の女性が之を助くること能はざるの點に於て助くべし、故に總べての他の人類が決して彼を助くること能はざるの地に於て之を助くる也。良人億兆の人界に立つ、然れども一日其妻なかる可らず、妻なきは半身を減げるが如し、とは此れの謂也。如斯く、妻を助くるものも亦た其良人のみ、世には男あると雲の如し、左れど妻に無くてならぬものは其夫只だ一人あり、夫一日なくんば妻の魂一日失す、夫は妻の光なり、精神なり。左れば、夫が其妻を助くるも、他の幾多の男性が決して之を助くること得ざるの點に於て助くべし、古しへの伊良都女歌ふて云ふ、

大和には大丈夫澤にありと云へど、
吾になくて堪へぬは君ひとりのみ。

夫れ夫婦の相恃のむこと如此く、其相助くること亦如此くにして、初めて能く伉儷親和の理想に達す。此に至りて彼等同住の家眞誠のホームと爲る、ホームとは良人眞に妻を助け、妻眞に良人を助くる、吉象の塲なり。

左れば、賢夫人が其夫を助くるは、常に其最切最要の處ろに於てすべし、他の婦人が得て能く爲す所の事の如きは、未だ必ずしも賢夫人を煩はさゞる可らざるの務めにあらず。料理裁縫は、妻の爲すべき事なり、彼女當に之を爲すべし。室内を調へ家を樂しくすることは、妻の役なり、彼女當に之を爲すべし。經濟を理し子を育て下婢は能く使ふことは、妻の任なり、彼女當に之を爲すべし。此等を善く爲す時は、妻の務め其半ばを畢へぬ、此等を爲すこと能はざる時は、妻殆んど其の職務に堪へざるなり、吾人極めて之を悲しむ。然れども彼女たとひ能く之を爲し畢へぬとも、若し他の更に大切なる一事を欠く時は、功未だ全しと云ふ可らず、彼女は實に妻の爲すべき事務の九十九迄を一々爲し得たることもあらん、左れど最後に殘る最大必要の義務、即はち妻にあらずんば決して爲し能はざるの一大事を欠く時に於ては、喩へば千刻万彫の佛像師、最後に其眼こに點せざるに似たり、前の百の苦行は悉とく畵餅に失すと云ふべき也。割烹裁縫の事は、料理番にても仕立屋にても出來べし、室内の飾り付は、器用なる下婢にても出來べし、子を育つることは媼にても出來、經濟を理することは家扶執事にても出來べし。吾人は此等を以て細君の要務に非ずと云には非ず、彼女もし十分に之を爲し得ば、既に通俗に所謂賢夫人たることを得しなり通俗の賢夫人は通俗の頑婦陋妻に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

優る、吾人は通俗の賢夫人にても其成べく多らんとを祈る、安んぞ妻が此等の要務を能く盡すとを熱望せざらんや。但吾人が言ふ所ろは、眞誠賢夫人なるもの丶要務は、正に此丈けにて了るものにあらず更に一つの大務を欠く可からずと云ふ也。蓋し彼女が最大最要の務めとは、其良人に對し、余の如何ある人も決して爲し能ふまじきの要務を盡すに在り。即はち一日も彼女を欠く可らざるの處ろに於て之を助くるに在る也

七。　理想賢夫人

其事何にぞや、之れ銘々に於て異なる。然れども、先づ尤も深く之を愛するに在り、即はち、料理番にも仕立屋にも下婢にも娼にも執事にも、決して出來まじき程に、尤も深く尤も眞實に之を愛するに在り。

深く且つ眞實に愛するとは、妾、藝妓などの愛に異なるとを謂ふなり。凡そ眞に愛するものは人の魂しひの益を計る。人の肉につきて掛念し、衣服につきて掛念し、世俗の立身出世につきて掛念するは、未だ其人を愛する最高の信切にあらず、所云る最高の愛とは、其人を善に導びき、其人を美しき人物とし、人間として其人を義なる聖なるの人物と爲さんとを欲するに在り。賢夫人が其良人に對する當に此の眞愛あるべし。彼の妾、藝妓などの愛あるものは、肉の愛なり、其愛あるほど、いよ〱深く人を毒す。

ノルマンデー侯ロバートの夫人、サイベラの事頗ぶる佳し。侯嘗て毒矢に中てらる、將に惡氣全身に流れんとす、夫人乍まち矢を抜き、傷に接吻し、毒氣を吸ひ出しぬ、侯之が爲めに生くるとを得たり。賢夫人が夫に於けるの大務は、彼が毒氣を吸ひ出して、之を活かすにあり。良人失望し、失望、惡計を生まんとす、之を諫め之を勵まして再たび義の陣頭に出軍せしむるは賢夫人の任なり。良人外界に雜じはり、俗慾に眩らめき、失落僞計漸やく姦に陷いらんとす、之を救ふて善に反へらしむるは賢夫人の任あり。良人善を爲さんとし、勇足らずして躊躇決せず、密かに内事を懷ふて彷徨す、果然之を激揚して勃々勇躍せしむるは賢夫人の任なり。良人善を爲せり、而して善の爲に困しみ、迫害罵詈四方に起る、天下一人の之を介るものなし、只だ能く之を助け、之に同情を表し、滿世皆敵只君耳と歌ひ、家に歸り大盤石の上に安眠せしむるは賢夫人の任なり。ロバート、ブローニングの歌に、

"There is a vision in the heart of each, of justice, mercy, wisdom, tenderness to wrong and pain, and knowledge of its cure, and these embodied in a woman's form."

蓋し、何人も、正義、慈悲、智慧、悩める者痛めるものへの優情、及び之を慰さめ癒やすの智識を、法として幻想するなり、左れど眞に能く確認するものなし、亦實に其の如くあるもの稀れなり、只だ此等美徳の化して渾然一人間となれるは、即はち彼の賢女なり。

左れば、料理縫ひ針に巧みにして、能く經濟を理し、子を育て、家を調へ、客あしらひを好くするものは、通俗の賢女なり、之を夫人中の徳となす。全く之を欠くを夫人の下徳となす。左れど眞實最高の賢夫人たらんには、先づ彼の中の徳を兼ぬると共に、亦た上の徳を有たずんばある可らず。苟くも之を欠かば、吾人は未だ之を以て理想の妻女たるとを得たるものと為す能はざる也。

夫たらんものは、少しく其理想を高くすべし。妻たらん人も一層其覺悟を高くすべし。凡俗の所謂る、内助なるものは、妻を以て一種の下婢たらしめんとを欲する也、吾人之を善き事と思はず。

……………………

次號には、中島俊子の投寄に係る、「内助の方法、及功用」の一篇を掲ぐべし

論説

女子に選擧權を與ふべし

其理由十有二　米國　ブラックエル夫人

甲説し乙駁し、論駁辯難紛々として歸する所なし、是米國に於ける女子選擧權の問題なりとす。吾人近頃、ウーマンス、ジョウナルに掲載する一篇の文章を見たり、即ち女子に選擧權を與ふべき十二の理由なり。左に大意を譯出して吾人目下の參考に供ふ。…………雲　峯　子……

（一）法律に從ふ人民は當に之を議定するとに與かり、租税を貢ぐ者は當に其税額及び其消費法等に關はるべきは理の正く且つ美なる者と云はざる可からず。ハリエット、ビーチャー、ストウ夫人嘗て云へる事あり、曰く若し政府にして眞理を基ひとし、國家は人民に依て立つものならんには代議の制なくして課税するの寸理なし、女子にして財産を有する者あり、其課税せらるゝの場合に於ては、無論其財産所有者に選擧權を與へ以て代議士を撰出せしめざるべからず、一國政府に於て婦人の財産を要する事宛から一家庭にて之を要するに異ならずと、名言と云ふべし。

（二）女子に選擧權を與ふるは、社會に女子の勢力を強大ならしむるに就て、最も容易最も完全且最も高尚なる方策といふべ

し。女子よく歩す、歩して投票函に至り、紙片を投じて其望を屬する人を撰ぶ、何の難き事かある、今撰擧人が群集會合する間に立ち、巧辨佞語之を饗應するに比して寧ろ易々たり、紙片を投ずる必らず結果を得、人を待遇する遂に何の果なきに至る。女子に撰擧の權を與ふべき理由の第二は、即ち之なり。

（三）第三に述ぶべきは、女子の心胸を廣大ならしむるにありとす。彼等多くは實際の事柄につき考ふる所なし、故に空想に流れ、虚飾に耽り、優々成すなくして世を渡るに至る、若し一朝政界に心を留め、公事に眼光を放つに至らば、其宿弊頓變し、妻となつては夫の參謀たるの賢婦となり、母となつては廣寛正大の良母となる。此に至つて始めて良人と語りて之を樂しましむるを得、良人家に公事を談ずるの友なく、去つて遠隣に快活を求むるの要なきや知るべし。

（四）婦人の勢力を增加せんため撰擧權を與ふべし。ベンハルの母ゼレルダ、ワレース夫人嘗て女子を政界に臨ましめざるの弊を擧げて云へり、大意に曰く、母は國家の政治家とある者をも養育せざるべからず、若夫れ自ら政權なく國事を知らずして其子に高潔温良の政治家たれよと云ふとも、子之を信ぜざるべし、蓋し德義上の養育はよく信任する所の人に非ずば益する所なければなり、子にして母の撰擧權なきを知らば大に母の言を信ずるの心弱まるべし、女子に撰擧權を與へざるは即ち人を誤るの云ひなり、若し好き政治家の輩出を望まば乞ふ先づ我等女子に撰擧權を與へ、政事に參與せしめよと云ふと。是亦格言なり。

（五）適任者を撰出するに至るが故に撰擧權を女子に與ふべし。ワイヲミング州に一話あり、述て例證せん、女子に撰擧權を與ふべき議決ありし後ありき、一人の若男代議士に擧げらる、其人不德惡行至らざるなし、街頭に立つて公然濁界に出入す、男子は尚之を不可とせず、再度撰ばんとせり、某婦人之を聞き憤然起つて曰く、彼撰ぶべからずと、良人其故を問ふ、然して答ふる所なし、急ぎ隣家の婦人に之を語る、其婦亦他に傳ふ、喧傳止むなく遂に惡行者をして再び議場に昇らしめざるに至れり。彼其失敗せし所以を知らず、一女友告げて「君の如きは再び撰ばず、蓋し我等の子孫に惡例を示すものあればなり」と云ひしを聞き、始めて身の過ちを悟れり。此に於て同州の人女子に撰擧權を與ふの可なるを實認せり。若し女性の勢力撰擧の上に及ぶあらば決して前例の如き者を撰出せざるに至るべし、之を第五の理由と爲す。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

（六）。稍もすれば云ふものあり、社會今日の狀態に於ては不德婦人の勢力强くして立法上大ひに其の影響を蒙りし事多し、ミシガン政府の立法部にある某アンナシヨー夫人に告げて曰く、若し今日婦人に撰擧權を與へなば、不德の女子遂に勢を成すべしと、シヨー夫人之に答へり、曰く、勿論世に不德淫行の女子ありて或部分には軒を連ねて住む、彼等の勢力立法部に及ぶは亦實際見る所なり、されど是不潔汚行の男子を撰擧するが故に斯る弊を招く耳、若し男子に潔き者を得ば斯る要なきに至るべし、男性が代議士を撰ぶや誠實の道德品行に注意するもの少し、故に不德者撰出せられ、彼亦他の不淫行者を擧げ、惡行の徒相携へて高位を求むるに至る、見ずやニウヨーク州のレエツフ氏を、彼の如き人物は勿論惡婦人の爲めに勢力を及ぼさるべし、されど惡婦淫女は世に多き者に非ず、世の大多數の女子撰擧權を得ば惡婦淫女は遂に勢力なきに至るべし、且高潔清白の人士を望むるに至らば自ら惡勢力消滅すべしと、故に曰く清潔の女子は適任の代議士を出さんが爲、撰擧權を得ん事を切望す、安んぞ只事を好む者ならんや。

（七）。婦人の道を盡し得んが爲めに撰擧權を要す。農者は農業上の利を得ん爲めに代議士を出さんと欲し、商人は商業上の益を收めんとして撰擧を爲す、女子が其家を治むるの便宜を得んとて撰擧權を求むるも豈止むを得んや。數年前の事ありき、ルヰスヴヰル市長博奕禁制の法律を發布せんとせり、時に市民、代言人、醫師、商人等皆其不可を論爭し、必ずや商業衰頽の原因とならんと痛諫せり。蓋しルヰスヴヰル市に來るの徒は單に商業上の利益をのみ收めんとに非ず、博奕を爲し不義の事を致さんと欲せし者あり、左れば博奕を爲す能はずば遂に同市に來らざるべし是諸般の人民市長の爲す所に不可を唱へし所以なり。後ちセントポールの市長亦同法律を施かんとして反對せられたり、男子は利にのみ是れ奔り、貨財をのみ是れ求め、聊かも德義上の感念なし、市長に反對する、故なきに非ず。されど女子に至つては家を治むるの義務あり、子孫を養育するの職分あり、而して賭博の非理なる職務に大害あるを知るが故に市長の法律に同意せり、如何にせん撰擧權を有せざりしが故に望を抱ひて空しく歎くのみ。悲しき哉撰擧權を有する男子の反對せしが爲め遂ひに市長も之を決行し得ざりしなり。惜しむべき事といふべし、女子が家を治むるに於て撰擧權を要すとは斯の類の云ひなり。

（八）。政治界の腐敗未だ今日より甚しきは非ず、是女子が撰擧

權を要する所あり、時に善者君士出で丶世を憂ひ、政治界を一掃せんとせり、されど一も思ふ所を果さず。終ひに女子と協力して之を爲すの得策たるを悟れり。政治界の腐敗は永久男性の交も攪する所となる、從て子孫に惡果を殘すや必せり。加之女子の男性と等しく貢ぐ所の租稅は悉く男子の意の如く用ひ、女性が最も有益に必要なりと思ふ如くに用ゆる事なし。否却つて不利益に不用の事に費す事多し。人或は政界の腐敗甚だしく、女性の力にて救治する能はずといふ、左れど是れ中世の士人が妻を敬尊するとのあまり其家内の塵汚に手を觸れしめざるが如し、若し其塵埃の爲めに良人兒女健康を害するあらば妻たる者安んぞ優々閑々として傍視し得べき、必ず自ら手を下して淸掃せざる可らざるに非ずや、女子の政界に入らんとする亦斯の如きのみ。女子は竊かに道德心を發揮し内に隱居すれば可なり出で丶政界を掃くに及ばずと云ふは、誤りの甚しきものなり、是恰も塵埃を見、額を縮むるのみにて掃除は爲し得ると云ふが如し、愚も太甚しからずや。

(九)。從來法律を制定するに於て、女性は少しの勢力をも及ほす能はず、特に男性のみ相集つて之を制定したるが故に、今日迄の法律は只だ男子の便益とあるに癖する所多し。若し假りに女子のみ出でゝ法律を編む事ありとせよ、其制する所多くは女性にのみ便益あるのものと爲らん、其偏癖するの弊只男女を異にするのみ。人各自身の意見を以て觀察す、故に偏するに至る、是人性の常深く怪むに足らず、吾人は幸にして雙眼を有するが故に、萬事萬物其一面のみを見る可からず、是れ男性と相伴ふて女性亦法律制定に與からんとを欲し、先づ其撰擧權を望む所以あり。

(十)。女性は常に殘待虐遇せらる、此弊を矯むるは即ち女子に撰擧權を與ふるを第一の方策とす。ミシガン及びウヰスコンシンに於ては女子其意に好まざる魔業をも營なむ事ありといふ、ブッシユチル氏斯る惡業を止めん爲め、種々盡力せられたり、されど、彼等が罪惡に沈めるの深きが故に救濟する能はざりしとぞ。斯る事を公許するは抑も當局者の過失と云はざる可からず、之を救ふ只夫れ淸潔なる女子の勢力を強からしむるにあるのみ。若し之を爲さんとせば先づ女子に撰擧權を與へざる可らず。

(十一)。不德の撰擧者多きが故女子に撰擧權を與ふるの必要愈切なり。シカゴの某會議に於て決議せる言に曰く、女子に撰擧權を與ふべきの說烈しく反對せらる丶所以の者は、不德の撰擧者其意を逞ふする能はざるが故あり、故に女子をして撰擧

の權を有せしむることを彌よ主張せざる可からず云々と。今日不德の徒、力を恃み、女子を壓して自ら其慾を逞ふすと云へども、女子をして能く心服せしめたるに非ず、早晩亦女子の力現はるべし。蓋は女子に撰擧權を與ふるによつて現はるべし。

(十二)。フランシス、ウヰラード女史の言へる如く、撰擧者二派に分れ、一は適任者を撰び、他は不適當の者を擧ぐる事あり、兩派其數相似て何れとも決せざる事あり、此に於て女子は清潔公平の思想を以て其善者に加擔せん事を望むべし、其希望を遂ぐる只夫れ撰擧權を得るにあり、女子に撰擧權を與ふべき最後の理由は、即ち是なり。

女學子云く、米國の女性は撰擧權を與へよと絶叫し、到る所に遊說演說せり、而して多くの州會は既に之を割與したり、尚且つ女性にして知事と爲れるものあり、英國に於ては既に郡會府會の議員と爲れるものある也。然るに東方の帝國、亞細亞全洲の光りたる、大日本には、女性は政談を傍聽することすら出來ざる也。

身に負はぬ賤がしわざも玉くしげ、
わけてだに見よ中のこゝろぞ。

批評

吾黨は仁義を進めんことを欲す。故に若し傾する所ろありさせば之に傾すべし。吾黨の勢力は一毫だも大ならしめんことを欲す。文學、著作に對する亦此觀念より斷す。啻に賞揚すべくして未だ爲さゞるは、吾人が未だ知及せざるもの耳。一日之を知る、直ちに賞敬せん。(女學子)。

〇國會第一期の政治意見

蹴して候補者と爲り、撰擧せられて直ちに意見を變ずるもの、東門の議員中甚はだ多し。故に、議員は撰擧以前に公開の演說を爲ふし、紳士たり大丈夫たるの言質を廣告するを要す。

島田三郎君、嘗きに之れを毎日新聞紙上に於いてし、今ま亦た一冊子に製して、横濱撰擧區の撰擧人に配付せり。小序に云く、

……在り乍ら之を思ひ之を思へば鬼神之を助けんとす、鬼神の力に非ず精氣の極なりと古賢も申候ひし如く、其難きと期して思を積み候へば分に應ずるの義務を得られざる儀は有之間敷、天才に限りあるは致し方之無候へ共小生は唯誠實に自己の分を盡して知己に酬ゐるの覺悟に御座候。而して其の本年の會期に呈出すべき意見若干、極めて實直に

して、彼の夥多の事項を列擧し政綱を花飾するの類に非ず。論じて、初期國會の要務は誠意を以て進步政畧の實行を促すに在り好例を示して國會后年の基礎を立つるに在り」と云ふが如き、我人の尤も同意する所ろ也。

○自撰投票論

自撰投票の事何如ん、伊藤博文氏は之を不德として速かに制止せざる可らずと云ひ、末松謙澄氏は之れ止を得ざるの事あり默許せざる可らずと云ふ、我人は固より伊藤氏に同意す。撰擧は代議士を撰ぶものなり故に自から撰ぶと能はず、自から撰ぶの利偶ま之れあるも滔々たる其害極まる所ろなきに及ばず、自撰の弊數ふ可らず。記名投票の制可か不可か暫らく言はず、然ども既に記名投票す其の自から撰ぶとを制するの主旨明白と云ふべし。吾人は固より伊藤氏に同意すべし。

○日本評論の歐洲文學

誰か之を目して單一の文學論なりと云ふ。憂國慨世の情勃々万丈の氣燄爛々として登る。文は人心より發す、文を論ずるは即はち人心を論ずる也。凡そ今の我國に憂ふるもの、安んぞ先づ其文學に對して慷歎流涕せざるとあるべき。徒らに大言するものはあり、漫に飾るものはあり、ドラを叩くものはあり、メソ〳〵と泣くものはあり、但だ夫れ大道を信ずるの固き勇者の死に臨みて猶疑がはざるが如く、高潔を慕ふとの切なる天使が雲上に向つて飛揚するが如く、而も慨然として蜻蛉洲の將來に深痛し、天地の聖殿に坐して同胞前途の進路に深く憂慮するの文字、何處にありや。吾人之を求めんとすれば、今の文學界、先日本評論に就て少慰を得ざる可らず。

○詩仙を讀む

上州吾妻郡四萬温泉に暑を避くる、知人某より、一書を寄せ、末に「詩仙」の評を惠まる。左の如し、

最近三號に分載せられし詩仙と題せる御論、いつもながら卓出、おもしろふ拜見仕候。

あはれ、大詩人出よかしとは、千萬人諸ともにのぞむ處に候得ども、如何にすれば出現せしむべきや、千金を賭くるとも、是ればかりは求め得られまじく、會堂に涙をこぼし祈るも○○様御こまりと存じ候。

小生、詩に就て迷ふ處頗る多し、房州滯在中も又歸京致しても、折々に詩を研究仕り候得ども、迷路更に迷路。死門より入しものと見へて、瘴烟前に起り、砂石後に飛び、益々蹉跎た

るのみに候得ば、あはれ我が爲に、黄泉考出よかしと、苛にも詩の名目あれば、常に敬する人と敬せざる人の區別なく、新聞ざつしに散見する詩論一と通りは讀了致し候が、さていづれも似たるものにて、我が鬱胸をひらくもの少しくも見へず。さりとて我れ新説を得たるにてもなく、誠に情なく存じ候。小生、少々ばかり友人の作を世に披露し自らは作才なき故、若さゝりし故に、世はクリチツクを以て小生を呼べど、中々にかゝる尊稱を受くるわけには參らず。クリチツクなど曰はるゝ度に、戰栗致し候、マコーレーなど申す男は下らなき人物にて、一代に著書は多かりしが、いまだクリチツクと云を得ず。計るに、マコーレー十分一にもかなはざる小生を、クリチツクなりと云ふは——自らは無論はぢ入れども——許して呉れる世間、誠に淺ましく候。

小歌唱ひながら筆探る時は、原稿紙三十枚や五十枚なまで苦しく無之候ひしが、自分で振向ひて見ると、一行の文字容易無御座候。

長谷川氏にすゝめられ、友誼上無餘義、梨末集を讀んでゐる一文(批評にあらず)、出版月評社に投書致し候。今月むしろ來月はじめ刊行の月評三十四號に、掲載と存し候間、お序もあらば御覽被下度候、無ろん雲霧の中にとりこめられ、東も、南も、分らず、コハ〳〵書きしものなれば、隨分無理なる、淺薄なる——愚蒙なる、論法も有之候得ども、あはれ御序もあらば、御覽の上御敎示被下度候。

所謂詩なるものにつきての説、やゝ兄と異なり候。兄は、はじめに詩文の區別を、風調如何を以て論ぜられ、終りに、風調を是非するは末なりと曰はれ申候。一寸見れば何でも無様なれど、仔細に玩味すれば、矛盾に御坐候。小生には少しもわからねども、詩文の區別は風調にあらずと存じ候。兎にかく、月評紙上に於て、小生の有耶無耶説、御覽の上、御敎示もあらば、千萬忝なく存候。詩論を聞くはピヤノより面白し、子規鶯よりたのしく候。

S. W.

〇英文日光案内

伴直之助氏の著作なり。彼氏の交際を暁め、内地の美を世界に吹聴するの主旨に成る、時節柄有益にして外人を裨するもの多かるべし、就中歴史上の由緒を述る所ろの如きは特に外人を喜こばするものなるべし。但し英文は如何にも不注意にして Mapa (map) of Nikko Zan (mountains) と云ふが如き、又は 1st June と記すが如き、些細の事なれども、外人は之を一見して直ちに本書に信用を置かざることあらん、或は or well to as gentlemen(第八頁)の如き、意味の分らざるものもあり、羅馬字綴り方の太はだ宜しきを得ざるもの多し、之れ本書の爲に惜しむべきなり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

左れど外人は此等文飾の點に掛念せず、能く本書の眞價値を熟知して、日本第一の美景に續々參詣せんことを希望す。果して然らば是の書は國粹を稱揚する忠實有功のものとなるべし。

○ダヒッド、リーヴォングストン氏の傳　雲　峯　生

幽暗慘黑たる蠻地に入り、水山の難を冒し、野人猛獸の災を凌ぎ、數十年の辛酸を嘗て遠遊の大功を亞弗利加大海に爲したるリーヴォングストン氏の傳出でたり。吾人は英米に於て氏の聲名の赫々たるを知る、從て氏の傳記履歷を綴せるもの多きを見る。されど我國に於ては未だ氏の名博く知られず、氏に關するの書未だ見えざりき。此に京都の某學校に在る佐々倉代七郎君り氏の傳を譯述せらる。余嘗て君と共に學ぶ、よつて一本を贈らる。今之を讀むに譯文平易にして解し惡きふしなし、叙述の事實に至つては素より讀者をして神壯に氣活ならしむるものゝみ、惰漢遊夫尙之を見て奮起するあらん、吾人は此著の出でしを稱贊して止まざるなり。其卷末に一篇の長歌を附す、其一節に曰く

世のあら皮に碎かれて　身は老ひぬれど中々に
精神のちからいやまして　病の床にふし芝の
しばしやすらふひまもなく　つかれ果にし其身にて
此世の旅路百千里　今ぞ限りになるかみの
エホバと芝にいこひけり

勇壯快雄の作といふべし、要するに本篇は初度の作としては上出來と云ふべし。終りに一言すべきは譯文の事なり、左程晦澁の迹なけれど、隨分直譯に似たる節なきにあらず、形容の辭縷々として連なり、文章の字句綿々として續くもの多し、素より飜譯は難事なり、されど願くは一層日本の文章らしく述べん事を希望す、譯者の此に勸勉せられんとを欲して一言す。

○心のかゞみ　第一號

東京淺草北清島町聯合婦人會より發兌し、東京貴婦人法話會、同特別婦人會、北海婦人會、山形貴婦人會、秋田貴婦人會、太田婦人會、長野婦人協會等の聯合編輯にして、主も佛敎主義なり。斯る類ひの雜誌中にては、編輯躰裁その他万づの事、一ときわ目立ちて見ゆ。

雜録

英國上流の貴婦人、一日間のくらし方

交際社會の婦人は、何如に世話しきものか、中々下々の者が想像も及ばぬ程です。英國の某雜誌記者ガスケル女史は其世話しさの程を寫さんとて、或る有名なる貴婦人に「アナタは一日何如お暮し遊ばす」と問ひかけて得たる答へを、クリスチアン、ユニヲンと云ふ雜誌に載せました。次に大意を譯して、我國上流の方々も、定めし追々御同樣かと、陰ながら、お氣の毒に存じて投書します。　しづ子

私は、一日十四時間程の仕事を爲終る中にも、勉めて多少の保養をいたし升。第一、妻たり母たり一家の主婦たるの重任ある上に靈性を發達する事にも注意して居り升。それ故常に讀書して進歩する樣勉勵いたし升が、さて引も切らぬ邪魔が有ては、俗世界に呼戻さるゝ事が多いので御座り升。手間は小遣料と一般誠に僅少で、或は相談に、指圖を聞に、憐を乞ひに、尋事に、參る人々に對して一々返事を仕すと、小遣料の遣ひ道が多いやうに、僅かづゝの暇まは皆な失せて仕舞ます。常々人の私に求るは、專門家の熟練と馬車馬の柔順とを兼よと

の事で、アクセク仕事に追廻さるゝ心地の仕ない時はありません。或は演舌を致し、慈善會を開き、雜誌に投書し、内外の文通を爲し、さま〲の慈善の事又は政事上の會合を總理するなどの間々には、子供等の教育、世話、良人の給事、家事の修理、病人の見舞、訪問、饗應、など數ふるだに煩敷ほどの義務を持て居り升。

さて男子の特許とも申す可きは一事を爲すの間だ、他の煩ひを避けるの権理ありとても云ふ如き事で、例へば良人が演舌の準備をなさる間は、書齋に籠つて、俗人をも、天使をも、其に謝絶し、沈思默考、大抵事の果るまでは、敢て邪魔を蒙るとも有ません。是は自身でも正當の習慣と思ひ、世間の人も當然と容るす樣になつて居るから出來るのです。斯樣な時は子供が家の内に遊戯するも禁じ、宣教師をも、政事仲間をも、一樣に謝絶いたし升。是に引替へて、私ども婦人は、自分の自由にするとの出來る暇と申すものはさらにありません、物書かふとするにも、子供は周圍に纏廻り、摑合ひ、組合ふて居る其中ていたし升。料理術其他召使に對する指圖を朝の中一時に爲終つて置けば、終日の煩敷は必ず除けるといふとは、昔しより申す事で、極く便利の樣ですが、實際は甚だ行ひ難い事で、雜用の煩はしさは富めるものも貧民も同樣です。私どもでも、迚も免かれません。修める家の規模が大きければ大きいほど、新たに命ずるとも、一旦命じたとの取消も始終盡ません、電報の時を限らず人を驚かすとも、待たぬ客の來るとも、待つ客の事情に妨られて來ぬ事も、皆な認めて處置せねばならぬとて、如何樣に些細なとも、一家の主婦の預からぬ事とては有ません。一寸と例を擧れば、昨日などは、朝の中少しの暇を得て、さて靈性に一と芽吹せるはこの時と、昔し友だちの、スペンセルの書を繙といて、彼の「何如にして世に處する乎」といふ高尚な議論に、精神の煩悶を一と洗と思ふて十行も讀み終らぬ中に、料理人は會釋しながら今晩の饗應に用ゐる菓子の事は、お忘なさりしかと尋ねに來ました。さて、漸く料理術を去らするや否、以前の書に再び思を注ぎ得ぬ間に、給事が馳て來て、憚ながら、私は奥樣のお給事です、庭作りの下に使わるゝが、奥樣の思召ですかと詰を始として、朋輩から侮辱を受たといふ、長々敷來歴を述ました。漸く宥め賺して其怒りを冷し、戸を閉ちさせたと思ふ間に、相手の庭作も料理術の報知があつた者と見えて、給事の不埒の控訴に入込ました。其申立の長さ、煩はしさ、どの樣に氣を靜めても、爭の原因を解し得ぬほどでしたから、兎も角先づ追ひ拂

つては仕舞ましたが、跡は何分心が入亂れて、彼書物の主意を會得するとも出來ず。漸く心氣の恢復し始めた頃に戶を推開て這つて來たのは、双子兩人で、母樣に見て頂だく事があると申て、庭まで是非と引ばるのでした。庭に居る間に、フランスから來て居る下婢が、お孃樣のなさり方が餘り堪切ませんから何卒お暇をといふ訴訟事件が出ました。其中に、又村の學校の校長が、學校へ來た參觀人に付ての苦情を弁べたてゝゐる最中に、家の犬が大事な店借の足に咬付たとて、屋賃を引下て貰に來たといふ者が有升。モウ此時までには、讀書の事などは一切思切らねばならぬ樣になり升た。午後となつて良人と新敷馬車馬を、試みに驅つて見升たが、五時には音樂館の開館式に出席して、一場の演舌を勤めました。歸り途に、長屋に住んでゐる下婢の老母が病氣で、死に近くなつてゐるものに、聖書を一章讀聞せてゐる中に毎日仕送つてゐたソップ一杯が、まだ屋敷から來ないといふ事に心を痛め、之を言付んとて、頓て歸れば、留守中に王黨の華族一人、民權黨が一人、中買が一人、有名な女役者が一人、慈善家のユダヤ人が一人、新聞記者が一人、無神論者が一人、天主教信者が一人、回々教に熱心な新教信者が一人、來て居まして、之と共に晩食を仕ました。食事中にはさまざまの雜話があり升たが、私は疲れ果てゝ、口を開く事さへ、ろくろく、いたしませんかつた。此宴會にブマな事といふは、魚が間に合ない事でしたが、良人はこれが私の過ちだと云つて、ひどく譴責致されました。私は時々、何故婦人といふものは、生涯家内中の覺へ帳になつて居らねばならぬものかと考へます……。

西行の歌

うた子

女學子が、西行の歌に尤とも感ずと申されしは、深く己が心に合ひぬ。鴫立澤、枝折せて、歎きとて、なんぞの外か、日比ろ、殊に善しと思ひて味はひ唱ふるは、左の如し、

思ひ知る人あり明の世ありせば盡きせず身をば恨ざらまし
逢ふ迄の命もがあと思ひしは悔しかりけるわがこゝろかな
世の中を思へばなへて散る花の我身を扨もいつちかふせん
月のいろに心をきよく染ましや都をいでぬわが身なりせば
樂とならば浮世を厭ふしるしあらん我身は曇れ秋の夜の月
更にける我身のかげを思ふまに遥かに月のかたぶきにけり
鈴鹿山憂世をよそに振すてゝ何如に成り行く我身なるらん
山ふかくさこそ心は通ふとも住まで哀れは知らんものかは
數ならぬ身をも心の守り貌にうかれては又た歸り來にけり
月の行く山に心を送り入れてやみなる跡の身をいかにせん
暗はれてこゝろの空にすむ月は西の山邊やちかくなるらん
をしなべてものを思はぬ人にさへ心をつくる秋のはつかぜ

暑中見舞

山下石翁

盆とか云ひて遣ひ物すめり。卵の折、風月堂の菓子、數多貰ひたれども、快ちよからぬと言ふ斗りなし。夫れ遣ひ物は當に愛情を現はすのものたるべし、虛禮輕薄なる義理立ての爲めに取遣りす可きものに非ざるなり。人愛あれば、何ものをか遣はして其愛を現はさんとを欲す、是れ眞實の人情なり。斯る心より發する贈り物は千万金にも優りて尙ほ貴とし、うれし。左るを、利慾名譽の邪念を含有する通り一遍の遣ひもの、無禮にも、彼の神聖なる贈りものと混じて、暗然烏の雌雄を雜じぬ。吾等之を見て、姦賊君子と同席し、叉僞善者聖人の衣裳を着て君子の言語を吐くの感あり、不快言ふ斗りなし。

月は出でぬ

わが友過ろ頃より心理に竊ふ可からざる苦痛あり、暫く紅塵万丈の都門を避て、意を幽邃の境に養ふ。日を重ぬる十有餘、漸く眞理の扉に入る。今や氣澄み、心清まり、塵世の外に逍遙せり。則ち語て曰く、

（一）。塵より出てゝ塵に入り、暗より出でゝ暗に入る、暗の浮世の塵脫りて、今はシオンの月影に、喞く稚兒の心哉、
　喞く稚兒の心哉。

（二）。祇園精舍の鐘の聲、諸行無常と響く、浮世は何處……鴨川の、消き流れに群の鴨、心も無げに遊ぶなり、
　心も無氣に遊ぶあり。

（三）。イデンの園の花吹雪、靜けき風に香を送る、梢に双つ影輕く、揉も床しく蝶の袖、離れてこゝろぞ誰れや知る、
　離れて意ろぞ誰れや知る。

（四）。愛しと見し空もいつしか掃はれて眞如の月の影は澄けり。

君か友

女學記者、巖本の君に。

神を畏るゝといふ事

雲峯子

神を畏るゝとは恐怖の謂ひに非ず、賊人白刄を提げ、深夜戸を破つて入る、人之を見て恐怖す、猛獸怪蛇牙を鋭くし、爪を磨し、深山大谷に住む、人之に遇ふて恐怖す、恐怖とは槪ね斯の如きを云ふ。神を畏るゝは所謂畏服する事あり、一方に於て其廣大なる力と偉強なる恩惠を悟了して畏敬すると共に、他方に於ては野末の花、山間の狐をも倘保護し給を知り、服從するをこそ誠に神を畏る者と云ふべけれ。我近頃京塵を脫

し、濁風を逃れて山秀水明の境に遊ぶ、涼風樹頭に生じて暑を逐ひ、水波遠く響ひて音淸らかなり、草葉風に靡く所に螢を狩り、木梢緑滴らんとする内蟬の音聞ゆ、爽快云ふ計りなし、仰ひでは巍々空に達するの山を望み、俯しては大波怒號する大海を眺め、坐ろに造物主の力の廣大なるを感ず。之を感ずる事切なるが故に、上帝に依賴するの心愈强し起つて、快聲上帝の聖德を贊美し、坐りては其恩惠の優渥なるを謝す。嗚呼天地の間上帝の力を認むべき所何ぞ限らん、されど美光佳景を見て殊に其廣大なる力を悟る、世の人多くは萬事を輕々に看過す、之神を畏るゝの心出でざる所以なり、少しく心を用ひなば天地の主、萬物の王、全能の神を畏敬するの念必らず、起るべきなり。

神童は親の爲に殺さる

井上次郎

幼なき時、神童と云はれた樣な子供は、成人して反つて馬鹿者になる。之は、親達が無上に賞めちらし、無理な教育をして、其才氣を枯らすからで、喩へば栴檀の二葉を强いて引延し「小さくとも斯の如しです」などと誇るが如くて、之は五尺にもならぬ中に衰ろへて仕舞ふ。

淺草公園に日高寛一と云ふ奇童兒出でたり。幼なくして能く

文字を書くなり。此頃ろ其書き狀を「心の鏡」と云ふ雜誌に寫したるを見れば、

(母)サーポーや、文字を書て御呉」とて、毛氈の上に料紙を舒ぶれは、(寛一)イヤ〳〵ー」と頭を振て走り廻るを、(母)サー、文字を書けば此れを進げるよ」と、乳を出して見せければ、チヨコ〳〵と走り來るを、母は捉へ、(母)サー文字を書クンダヨ」と、座らせんとすれば、(寛)乳々」と、取り縋れば、(母)少と吞で書くんだよ」とて、暫時乳房に就け、(母)サ、文字書コー」と、座らすれば、尙も寛一は乳々と取縋るを、母は怒りし顏にて睨へれば、寛一は悄々泣出さんとするを、母は泣かせじと、(母)サ、文字を書くと玉を進るよ」と、湯出玉子を前に置き座らすれば、又もや玉々と騷ぐを、(母)サー〳〵文字を書て」と、寛一の左の手を料紙の上に居へ置かせ、今大筆に墨を含ます、右の手に持たせんとすれば、其間に又もや寛一は逃出し、次の間の襖の陰に入り、(寛)イヤジヤー〳〵」と小言き居れば、母は目を閉ぢ(母)寛は何所へ往たね、モー、來たかね、利口の寛は目を閉居る中に來ますよ、モー來たかね」と、囃し立れは、チヨコ〳〵と出で來り、母の前に座り、(寛)ポー來た」と、謂へば、母は目を開き、

一七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(母)寧馨兒〱」と頂を撫で、寛一の喜び居る樣子を認め、(母)サー文字書て、玉を進よふナー」と又寛一をして、料紙に向はしめ、前の如く、左の手を料紙の上に居へ、今墨を含ませたる大筆を、母は手を添て寛一の右の手に持たせければ、筆を執るや否や、寛一は、今迄の小兒の氣色は何へやら立失せて、其勢は恰も彼の勢たる競馬の駒の、走らんとするを控へるに異ならず、(母)何々だよ」と、今將かしめんとする字を呼び、寛一の右手に添へたるを離と同時に、その勢は、肥走るが如く、その速き事は、疾風の如く、一瞬間に一字を書、其勢にて次なる文字を書かんとするを、母は其筆を奪い、又もや墨を含ませ、(母)こゝからだよ」と、其筆を示せば、前の如き勢にて書き終り、終れば元の小兒にて、其墨の含みし筆を、其儘に毛氈の上に擲ち、前なる菓子を取て「ムイナ〱と」叙る樣は、同し寛一の所業とは思はれぬ程なりき」とあゝ、若し自由に發達せしめたらば、アッパレの大人物となるべきものを、無理なる教育をして英才を殺して仕舞ふか、扨て〱歎かはしきとにはある。

芭蕉の句

ちよ子

野菊までたづぬる蝶の羽おれて
三ケ月の東はくらく鐘の聲
花見にて女子ばかりがつれ立つて
朝貌や晝錠おろす門の垣
梅の木に猶やどり木や梅の花
ひよろ〱と猶露けしや女郎花
雲雀より上にやすらふ峠かな
馬をさへながむる雪のあした哉
雲折り〱人を休むる月見哉
何よりも蝶のうつゝや哀れなる
うたれて蝶の口をさましぬる
花すゝき餘り招けばうらがれて
ほたる見や船頭酔てをぼつかな
やがて死ぬ氣しきは見えず蝉の聲
無き人の小袖を今や土用干
草庵に暫らく居ては打やぶり
浮世の果は皆な小町なり
加茂のやしろは能き社なり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雉がわかるとやがて暮の月
おれが事歌によまるゝ橋の番
喰かねぬ聟も舅も口きいて
うぐひすや柳のうしろ藪のまへ

右七部集通覧の后ち。

深夜の星

かすみ

同胞の愛情

同胞の仲好き程ど羨やましきは無く、其冷やゝかなるほどさみしきはなし、何如に博く愛すと云ふと云へども、若し同胞相愛するとを得ずんば、愛や頼みなし。佛山、曾我兄弟を詠ずるの句に、

同胞同心又同死。將軍面前歷忸怩。
茅野風雪衣川月。九郎紅涙濕鐵衣。

天然の農夫

蚯蚓は何の役に立つとも思ふまじ。左れどチャーレス、ダル井ンは四十年の間だ、其性質、生ひ立ち、變化、などを研究して、晩年驚ろくべきの著書を出版したり。其が中に云く畠一エークル（凡そ四反餘り）に付き、平均凡そ五万三千疋の蚯蚓あり、目方十トン（二千五百貫餘）の土は年々此の五万三千の蚯蚓によりて製作さるゝなり。即はち蚯蚓は地上に落ちし木の葉を食ひて土を作り、之れを泌出して地下の壚土（草の腐りし土）を積む。之れによりて地面追々に高くなり、百年毎に二十二英寸丈け地面を押し上ぐべし之れ全く蚯蚓の盡力による也。故に、蚯蚓は新に土を作るのみか、又た上の土を下に入れ下のを上に上げ自づからの耕作を爲す、宛がら土づくりにして又た田をつくる者の如し。之れなくば農夫は餘程の損を爲すべし、蚯蚓は農夫の助け手たるなり。

人靈の智德

カーライル。ボルテーアを評するの文中に云はく、人は物力によりて支配せらるゝと少なく、智德によりて動かさるゝと多し、彼の思想あるもの、何如に靜かなるかを見よ、鼓を打つ一の響聲なし、足を踏む一の歩響なし、車を引く一の轣音なし、抑そも何等の行列か之が運動に伴隨する、見よ、何ものもなし、左れど陰暗幽密にして人の全たく知るとなき處ろに、沈思熟考する所ろの唯一の頭腦は、他日帝の威力も尙及ばざる所ろの大勢力を動搖し來る也、王も皇も之に使へ、天下皆之に服すべし、其勢力や万人の頭の

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

上を支配せずして頭の中を支配し、不可思儀靈妙ある魔力を以て全世界の心を其意思に隨はす、と。

今に於て天下の權を握らんものは、兵力にあらず、總理大臣にあらず、岩崎彌之助にあらず、後藤伯にあらず、實に靈性より發するの大智大德なり。

小松崎古登女を訪ふ　（其二）

妾は素より彼士が先つ日の手並を知るを以て且し其徒中五人六人寄せたりとて何程の事かあらん、とはおもふものから今ま面のあたり父母の陰に陽に氣遣ひ玉ふ狀を見れば流石に何とやらむ心苦しく我にもあらで少し躊躇ひ居たる折柄再び師の許より使の者來りて回答を促しければ是を機に母人を程よく慰め參らせ其者に伴はれてぞ出行ぬ。

斯くて師の許に至り例の如く試合を爲したるに六名まで悉く勝負を決するに及ばず二三名程打据へたる頃余の人竹刀を投げて妾が前に平伏しつゝいひけるやう迚も薙刀術には叶はぬものを聊平なる事を申出て、且しなきお妨を致したり去ながら此上の御願には拙者どもへ何卒薙刀の一手敎へ給はりたし實は拙者等は遠からず奧州會津への討手に向はねばならぬものに候が兼てより會津には三百人の女隊ありて手には薙刀を得物となし居るとこそ聞傳へ候爭て夫等の女共に對して恥かしからぬだけに薙刀術を心得置たしと思ふなりと交る／＼に請けれど素より數日の間にては到底此道の一端をだに傳へ得らるべきにあらねば只其受け方の心得のみを敎へ申べしと肯ひて夫より十日許日每に師の道場に於て彼士共に敎授の勞を採り候しが頓て會津征討の時日も迫りたりとて彼士等は銘々に暇を告げつ且いふやう誠に奇しき御緣にて假令暫時の間なりとも師と仰ぎ奉り懇なる御敎諭を蒙りしは身を終るも忘れ難き御恩にこそ責てもの御恩返へし迄に甚如何なる申條には候へども若し貴孃他へ御勤仕の思召にてもあらば何時にてもわれ／＼の藩主へ御推擧申上べし最早幕府方の御運も恐れながら是迄ありとこそ存候只今の內に御親子共何れへか御進退取りわる方然る可く存ずと忠實だちていひ與れしが妾も其當時は今日の如き御時世とならむとは思ひもよらざれば此言を聞きて誠に腹立しく假令饑て死する事あればとて敵の粟を一粒にても食むべき乎と苦々しく思ひたれば儼然として言ひけるやう其許達の深切は忝けれど其は入らざる心配なり尤戰の勝敗は豫め測るべからざれば若し不幸にして万一にも幕府方

の敗となり妾が他へ落行かん時其許達の罔めたる陣屋の前を過る樣の事あらば其時こそは今日の好み甲斐に命一ッを見逃し給へ其他には何事も御頼み申す筈はなし何れ其内戰場にてお目にかゝる事もあるべければ先づ夫迄は機嫌能く精々武功を勵まるべしと嚴敷言ひ放ちて別れけるが其後彼人達は如何になりけむか絕て音信だに聞かず今日にして是等の事を思ひ出せば誠に可笑しき樣なれど其常時にありてはいとも興ある事なりしと。予は此談話を聞て覺へずも彼軍談を耳にし或は演劇を目にするが如き心地して成程昔の人は妙なる處に力瘤を入るゝものありと一向に女史の顏を打まもり居ぬ。暫くして、

現今の弟子其種類幷人數卒業の有無を問ひたるに弟子の數は五六名程ありとの事なり其人達は何れも華族の令孃にて至極熱心ある人のみなりと既に卒業せし人は三名許あれど是は何れも皆他へ嫁して今は薙刀を採らるゝ事もあけんといへり。

廣告

●地方に於て、英語教授の洋婦人一名を要す●又た府下に於て邦語和學の教師、並に英學の教師たらんとを求るもの各一名あり、學力才德ともに確かに保證す●前後ともに有志の方は來談ありたし。

女學雜誌社
巖本善治

小說

うき世（完）

かほる

金樓玉殿に住み、綺羅錦繡を纏ひ、美食膏味に飽き、出るに肥馬輕車あり、入つては無數の人侍坐す、望み足り、欠くる所なきに似たり、是ぞ世の所謂果報多幸の人ならむ、されど余は之を見て必らずしも羨望せず、そは心貧しく、命安らかならねば世上幾多の黃金財寶も我に益なければなり、七珍堆をなし、萬寶山の如くあるとも、是蠹くひ鏽くさり盜人穿ちて竊む所の財貨に外ならじ、五十の齡ひ早く過ぎ、一期の日影西に傾き、三寸氣息絕え、肉朽ち、骨枯れし墓中一堆の冷土と消え去らん身のいかでか財貨珍寶を用ひんや、さるを世の人斯かる浮雲の如き財貨に心を置き、意氣揚々外形の美裝壯飾に耽りて得色たるぞ實に憐れなる。

屋破れて星光を洩し、壁傾きて風露を凌がず、麁食粗味僅かに飢を忍ぶのみ、弊衣襤褸漸く身を纏ふのみ、物として足るなく、事として意に充たず、赤貧洗に似たり、是之を不幸薄倖の人と世に云ふ、何ぞ知らん、心中自ら安きを得、命を立つる自ら所を得、仰ひでは滿腔の謝意を上天に表し、俯しては感喜の思を世に持つ、良田を購ふて富を得んと希はず、心中

自ら千鍾の粟あればなり、金家玉堂を架して居を安くせんと望まず、心中自ら黄金の家あればなり、出るに輿なきを恨まず、入るに人の從ふなきを悲まず、心に充る所あればなり、生泉混々流れて絶えず、靈賜優渥受くれども盡まず、喜び滿ち、樂しみ多し、望み固く、信強し、快愉之に如くなし、斯る人をこそ誠に多幸厚福の人とこそいふべけれ。

余は先の幸福者たらず、寧ろ後の不幸者となりぬ、世の所謂薄倖者にして、多祥の人たらず、されど靈に於て富むを得、眞實の幸福を享受得たるこそいと嬉しき事の限なれ、余は幾多の貧苦險難に遇ひぬ、先にはいと幸なき身の上を喞ち世を墓なみ、人をも恨みぬ、今や光りを受け、身の罪業を洗除せられ、誠に幸多きものとはなりにけり。

余は目下安くを得、慰めを受けぬ、いかでこを人に分たばやと病の中にも思ひけり、余は過る日苦痛を凌ぎて母上に手紙と聖き經文を送りぬ、母上は徒然なりしまゝそをよく讀み玉ひしとなん、余の故郷に道を說く人も今は在るらん、母上は難きふし〳〵を問ひ質し、直ちによき心を起しぬ、望て信とをもて樂しく余年を過さばやと云ひこし玉ひけり。余は之を聞て思はず聲を放て泣謝しぬ、千尋の海にも勝りて深く惠み、万仭の山よりも高き恩、忝けなしとや云いん、嬉しとや謝せん、余は斯程嬉しかりける事なし。

天空の鳥は如何にして生るや、稼くことなく穡る事をせざるに非ずや、是惠みは到らぬ隈なきが故なり、野の百合は如何にして育つや、勞めず、紡がざるに非ずや、是光は及ばぬ際なきに依るなり、一羽の鳥、一輪の花、尙然り、況してや人類をや、如何で捨て玉ふべきと悟り得ぬ、余自ら不測の幸福恩釋に遭遇し、こを深く感じぬ。

假令聖人の如く語り、天使の如く云ふも、愛なくは余に益なし、或は預言し、或は學術の深奧を極め、固き信仰ありとも愛なくば余に益なし、如何に財貨を施與し、心力を盡し、身を犧牲になすとも愛なくば余に益なし、若愛なくば遂に空しく鳴る鐘、徒らに響く鈸の如けん、我遂に數ふるにも足らぬものとなりはてん。余は常に此敎を固く守りぬ、いかで世に在りて眞の愛をもたばやと望みぬ、罪に汚れし身、心弱き者、善き事見ても爲し得ず、惡と知りつゝ去り難きふしもいと多かり、されば眞の愛をも養ひ得ざりき、されど先きによき道を知らぬ時と異り、余は心の變りし事を覺えぬ、寛忍ぶことをもなし、人の益を計り、妬まず、誇らず、驕傲らず、非禮を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

行はずなりぬ、余はこを深く喜ぶ。
預言廢り、方言息み、知識亦滅びん、されど愛は永久までも墮ることあらし、人世を去り、行く處は何處ぞや、朽ちはてんは我肉のみ、千世萬代の後余は尙存へん、余の存へん限りは余の愛は墮る事あらけん、余は之を聞きて實に人の愛すべく、世の親しむべきを悟りぬ。余は殊に母上を愛敬し、心より孝事せんと望みぬ。母上もよく余を愛し親しみ玉ふ樣なりぬ。過る日余は母上を都に迎へ、共に送る月日、いと樂しとも樂し、眞實の母上ならましも是にやは優るべき。曲れるを以てものを計るはいかで直なるものあらんや、余の心よからねば何ものか善く見ゆべき、余が先きに兎角ものせしは誠に余の曲言ありき、余は母上を恨みし事なし、されど余の筆の過ち若さる心見えんには余の罪深し、身は世に永らふべくもあらねど、心は萬世に止らん、作せし罪業尙消えずば如何に恐ろしからん、思ひ見るだに恐ろしかりけり。
余の心變りては萬の物いと美はしく見ゆめり、春花秋紅を思ひ出で、夏の綠、冬の雪を想ひ起し、天地の美、自然の秀に感ぜぬ事なし、誠に無限の力よく認むべし、三界は只心一つなりと人の云ひけるはよく當れり。
余は過る日母上の事をものせんとて筆を擱きぬ、そは病ひ強くなりければなり、余は其時母上に手紙を送りけり、流水飛花行く事疾し、指折り數ふれば早や一月餘りとなりぬ、彼の時筆を止めたらんには余は如何にやくなき身の上の記を殘したらん、余は今始めより再びものせんと思へども病の身にしあれば心ならず、先に記せしまゝ世に止めん、近頃快くありぬれば彼の記を書き續かんとて筆を採りぬ、久しく文をものせざりければ筆の走りも鈍くなりぬ、思ひ内に溢るれどそを書き現はし得ず。
雞聲曉きを報じ殘星の光り漸く薄く、微光空に映じて天次第に明かし、晴旭東天に昇り、萬物其光澤に浴す、鳥中天に歌ひ、獸地上に躍る、花は野に咲き笑み、木は山に美はしく茂り合ふ、魚鱉滄海に遊び、昆虫叢になく、打波は長閑けき日影に春の日を樂しみ、涼風綠を搖かす樹間に立つて夏の日を喜こぶ、秋光冬景亦眺めにあかず、天地行く所として美はしからぬはなく、見るものとして麗ならぬはあらじ、朝たに讃稱の歌を花園に謠ひ、夕べに熱情もて上天に訴ふ、心淸ければ希望遂には許るされなん。
余は尙記さまくほしければ徒らに長きは詮なし、此處に止め

ん、異日若身の病い癒りなば猶打續きてものせん事も出でこん、嗚呼やくなき事長々しくものしけり、人に見せんとには非ず、如何ならんも心に掛る所なし。破窓の下、月の光りさやかに匂ひ、燈影熒々たる所いとうれしく筆を擱く。

くらき世のつみを逃れてさやかにも、
天つ光りを見るぞうれしき。

寄書

○女學子に與ふ

女學雜誌を取て讀む中にして感謝ち起り禁する能はす則ち拙き筆をも顧みす記して呈する事とはなりぬ、女學雜誌購讀者の一男子。

嗚呼、顧れば月日は實に早き者である、昨日迄も今日迄も、子供心であつたのに、今圖らずも、己の年を數ふれば、早既に二十餘年を費した……嗚呼實に二十餘年……夢の間であつた、現の間であつた、何もなした事はない、又知た事もない。熟しよく〳〵考て見ると、只一つ知つた事がある。其れは、己は愚である、人は賢くあると云ふ事である。實に己は愚である、社會の贅物である……嗚呼贅物である……何故に世に出たのであらふか、此愚鈍が……然も男子として……然し、只一つ悟る事が出來る、其れは、人間の目的は、快樂にありと云ふ事、それに、最我々下等人種に喜ぶ者がある、即ち、賢愚に係らず、貴賤に依らず、貧富の區別なく、此快樂は求め得ると云ふ事である……嗚呼、實に感謝する、此賜は、女學雜誌の余に與へた者である、女學雜誌の、余の精神上に及ぼした感化は、如何に大なるか、余は始め、苦の世界と思ふた、悲の沙婆と思ふた、涙の海と考いた、血の池と考へた……今は悟つた、樂の世界である、喜の沙婆である、笑を以波だつの海である、愛を以溢るゝの池である……嗚呼、斯く幸に、余等を造りし者は誰であるか、天に在します、我等の父なる神である、天地万能の神である……仰で天を瞻れは、天日高く掛つて、遠く我等の道を照す、地上の萬物、我等の採るに任す、清き水の、湛きる池に至れは、魚喜び迎へて躍る、眺望涯りなき海に至れは、白波の觀迎するを見る、浩蕩たる長流は、源泉淡凝として、限りなきの潤澤を示す、我々の前に蹶る高山は、我々の足を鍛て、世界の富を見せしめんと請ふ、芳しき、美しき花に、戯るゝ蝶は、誰の爲にか翩々たる、茂れる森に、樂む鳥は、誰の爲にか囀る、野に走る、愛らしき獸は、誰か爲にか食を與へる……嗚呼、神の愛の廣大なる、常に我々を保護して、弱き者は、强からしめ、愚かなる者は、賢からしむ、正を踏で恐るゝなとは、神の命令である……嗚呼、我は强し我は賢……顧れば、今迄の生活は、暗黑の內に、苦の生活をなしたのである、今よりは、輝く天の光の下に、樂き生活をなす事が出來る。是れ神よりの賜、女學雜誌の導き、高潔なる志想を以、溢るゝ迄の愛情を以、紙上に顯るゝ記者の靈妙なる筆は自然に余を感化した……嗚呼慕はしきかる、記者余は默するに忍びん、天に向て感謝するも、尙滿足し得ぬ……拙き筆に寫して見樣かとも……笑はるゝと恥かしいとも……恥かしくない、正當である、文の拙さは、僞りなきを以、却て宜しからんと思ひ、自分の、今感じた事を寫さんとしたが、余の感じが、混雜して居る、只に感謝の意丈は盡けない理想の事迄書て、教を請ふも宜しからんと思ふた……且つ、世人の參考とも、幾分か成ふと思ふた……余の志想は、女學雜誌の爲に、淸潔にされた、度量を弘められた、見識を大くされた。(未完。

○憂慮するなかれ女子教育

まさな

或人愛嬢を某女學校に入らしむ、一學年終て歸郷す、大に世間習れたるの感ありし、二學年終りて歸る、得意然たり、(西諺に、大學の二年生は大學者なりといふに同じきものか)三學年終りて歸るや、言語、形容、儼然として父兄を凌ぐの風あり、徒に空理を談じて、復家事を顧みず、こゝに於てか、父兄は其生意氣なるに困じはて、親友は其驕慢なるに驚き、杞憂家は立て喋々其弊を訴ふ、されども憂慮するなかれ、これ女子の本性にあらざれば、永くつゞくものにはあらざるなり、只これ一時の反應のみ、寧ろ此現象あるをよしとすべし、已にして四學年去り、五學年來り、業卒るの日に於ては、思想高潔、擧措閑雅、其容温乎、其言藹然、よく父に仕へ、よく母を助くるの一淑女あるを見る、而して此間、確乎として冒すべからざるの威嚴を有し、復彼の優柔不斷、恐るべきの女子の比すべきにあらず、これぞ彼の生意氣なり、驕慢なりと稱せられし、反應的作用の再變したる賜なりといふべし、杞憂家よ憂慮するなかれ、何となれば、これ空論にあらずして、事實の證すべきものあるを認めたればなり、

みれ子、漫遊中に付此の一回丈け相休み、問答掲げ不申候。

交詢

●德島にて西洋婦人の教師が一名入用です。又た、府下の何處かの女學校にて、和學國文、英學、を教授したいと望まるゝ至極信用すべき、女友が二人あります、御望みの人は私し迄で至急申越下さい……巖本善治

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○政治は海邊の細砂に似たり

人世の事は政治のみにあらず、志士の論ずべきものは政談のみにあらざるべし、然るに日本人は兎角士らい氣が失せず、政治より外に好きものは無きやうに思へり、見識の狹さは驚ろくに堪へたり。試みに思へ、陸奥と云へる、一平民氏が大臣となるとも、廿年來の政治家伊藤氏が退職するとも、日本人民に左して影響する所ろを見ず。夫よりもコレラ病の種を見出すとか、其豫防法を工夫するとか、雨を降らす人爲の法を考へ出すとか、米作を增すの術を發明するとか、凡て此類の事に一奮發して見よ、其人世を益すると非常ならんとす。政治家になるものがゑら相な顏をするとの問違ひなる耳ならず、人々も亦た之をゑら相に思ふが問違ひなり。今日の政事家は大抵山師なり、山師が出世したりとて別段國の譽れにはなるまじ。　吾人は何事も實直にして正しき事の行はれんを祈る、左なくては、百の事業砂の上に家を建て流るゝ水に文字かくに似たり、何の効かあらん。故に先づ政事界に正しきとを求む、次に政事界のみに齷齪する人に勸告す、裏心眞に氣の毒に思ひ居る也。

○電　話　交　換

電話交換所に於ては電話線の結び付け方等には總て女子を用ゆる事に決定し差向き相當の學問ある女子數名を募集する由又電話線の結び付け方は極めて簡便なる故一人百線を受持たしむる由

○高山偉人を生ず

富士山に遊びし人は言ふ、實に高し、實に淸し、實に靜かなりと。凡俗の人。一遊を試みては何如ん、多少益する所ろあるべし。

○彼　　岸

政海の造り波、彼の岸に於ての事と思ひ居たるに、彼は早や日の本に寄せ來りぬ。沼々たる日毎夜毎の虛報、耳より入りて耳に脫す、ゆめ信ずると勿れ、捏造新聞。

○漠　　々

辭職とは、人の造り言か、己れよりの爲しめ言か。中立とは中立の謂か。進歩とは進歩の謂か。聯合を望むもの聯合を望むか。大同を名とするもの果して大同か。紛々として甞か空かを判つと難し。

○官與留守居役と傳道職

神官と教導職とを分離するの議は當然の事なり、啻に之のみならず、坊守と僧侶とを分離するも亦當然の事なり、政教を別つとは總じて宜ろし。

○同もに批評家と爲らん

政治上に於ける基督教徒の陰謀と題し、江湖新聞は二日間の社說に長辯進論せり、而して其論を見れば、民友記者一人を攻するものに似たり。基督教會の紛議と題し、棠々しく書立たる雜報あり、此は去年の夏比ろ橫濱住吉教會に起りたる一些事なり。故意か、迂餘かは知られど、共に事實に違し。同新聞の記者は、其論文の末に、佛教の腐敗は今日に極ると雖ども彼等の不德は消極的に出づ其力以て世道を攪亂して直接に國家を害毒するに足らず、と慨せり、記者の公平ある直言に感ず。吾社は基督教會に知人多し、荷くも事實なりせば、知らざると少なく、知つて隱くす所ろなけん。

○新政社集會法に對し

女子が政談を聽くとを得ずと云ふの一條は、何如にも解し難しとて、婦人矯風會員も、景山英女史も、婦人白標俱樂部の部員も、共に建白書若くは勸告書を上呈したり。

○魯士亞政府に對し

魯士亞政府がシベリア極寒の地に、左迄にもなき罪人を悉とく追囚するは、如何にも殘酷のとなり、外國の遠慮なりとて見逃すとを得ずと論じ、米國婦人禁酒會の會員は大凡そ一百万人の同意調印を附して、近々魯士亞政府に建議書を送らんとす、目下準備中なり。

○今の事業

江湖新聞は、府下に置ける主なる會社の衰狀を報じて云ふ、既紛議のありたるは

鐘淵紡績會社　　內外石炭會社
東京灣汽船會社　　日本織業會社
帝國工業會社

紛議の起りつゝあるは

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

帝國水產會社　　日本製鐵會社
日本東京電燈會社　　內國通運會社
紛議の將に世に顯れんとするは
日本土木會社　　東京製藥會社

果して實なりとせば是れ如何なる事ぞ。惟へらく、日本の大會社は民力の需要に應じて出來せず、多くは一種異樣の關係に由りて起れり、其一日にして俄に仕上たるものは、困苦に經驗し、挫折に甞し、其進み緩やかなる代りに退歩すると至つて稀れ也、是寧ろ進歩の速かなる者に非ずや、然るに一朝他力に賴りて俄か出世したる者は、其困難失敗すると頗ぶる多し、之を大にして會社の盛衰榮枯する亦た同理に歸す。故に吾人は今の大會社の末路を左程ど奇しむ者にあらず。願くは今后日本相應の事業が着々として汐ミに發達せんとを只管らに祈願するもの也。

○微蟲自から縛す

貧乏苦しきにあらず、貧乏にして貧しきを隱さんとするか故に苦しき也。今人の苦心大方は此處にあり、今の事業の六かしきも亦此處にあり。人は云く、世の中に立ちては方便なかる可らず、方便なくんば迚も立身は出來ずと、斯る人は方便なるものを買過たる愚人なり、方便とは一種のウソ也、ウソ何の日にか顯はれざるとあらん。最良の好方便は正直なるとにあり、最善の便經に云く、大賢は愚なるが如しと、此の謂ひ也。

○虎列剌病豫防の心得

虎列剌病は飲水より來ること多きか故に能く氣を附け生水を飲まざる樣になすべし橫濱函館の如き完全なる水道の水にても久しく汲置きしものは飲むべからず○食事は平生食べ馴れたるものを三度の時間を違へず適宜く用ひ平生にても腹下しを起し易きもの少し腐かゝりしものは用ゆべからず○總て生物は成るべく食ぬ樣にすべし水其外一旦煮立てたるものは安心して用ゆるを得べし○酒は常に好める者の適度く用ゆるは害なきも燒酎など强き酒はあしゝ又下戶の虎列剌除などゝ唱へて用ゆるもあしゝ○身體は度々沐浴して淸潔になし風引かれ樣取分け寢冷せぬ樣氣を附くべし戶障子を開け腹部を出して眠る等の事あるべからず○家の內外芥溜雪隱所流し等は每日掃除し常に不潔き所には石灰を撒き置くべし○腹下りするか又は嘔氣ある時は早く醫師に見せるべし暑中り食中りにて其療治の手後れとなるときは虎列剌病となるとありと知るべし（大日本私立衛生會報）

○米國訓盲院

米國ヒラデルヒヤに州立の訓盲院あり、此頃ろ院の取締に不都合のとありて、委員を公撰し之を撿査したり、到底樣々の弊害を發見して、扨て之が改良法を建案したる、第一條に、

凡そ敎育ある基督敎徒婦人を公共慈善會の役員と爲すとは頗ぶる至當有益の事なり。男子は總じて家政的取締の事に慣れず、隨つて之が爲めに樣々の弊害を起すとあり、若し婦人の役員あらば斯る憂ひなからんとす。故に第一に今后婦人を役員中に加へんとを勸告すと。

此種の議論到る處に在り、而して到る所ろ漸次に勢力を得て實行さる。實行后其益を證せざるは稀れなり。

○亞片禁止同盟會

支那に亞片を賣るものは英人なり、然れども之を賣るとを政府の大不德とし斷然禁止すべしと主張するものも亦た英人なり。六月廿二日、ロンドンに於て其の年會あり、左の二ヶ條を決議す、

一　支那に亞片の毒を撒き散らす耳ならず、印度にも亦た追々に盛大ならんとす、是れ英民の處置なり、印度に在る官吏は先づ之を全禁すべし（スチウワート氏建議）

二　支那に亞片を賣らしむ耳ならず、亞片の栽培製造を保護するが如きは政府の大非徳なり、政府速かに如此き處置を中止すべし（レイス、フライ氏建議）

右二條大賛成を以て可決し、直ちに國會へ向け建議したり。

○寄宿舍

佛蘭西の名士ジウル、シモン、家庭評論雜誌に投書して、學校寄宿舍の事を痛論す。云く、寄宿の制度は、男生の爲にも女生の爲にも宜しからず、特に女生の爲に不利なり、若し止を得ずして寄宿せしめば、家の母は此日より用事少なくなれりと思ふと勿れ寧しろ多くなれりと思ふべし、即はち必らず一日一回書狀を送りて文尙上之を敎育し、又每度之を訪問して親しく談話し、彼女をして家政女務に無頓着なるが如きものと爲らしむる勿れ。然れども尤も善きは、戶々のホームより學校に通學せしむるにあり、寄宿の制度は男女生をともに害殺すと。之れ過激の論なりと云へど、目下佛國の敎育時弊に付きて深憂するの言なり。

○女散髮師（とこや）

女の髮結と云ふ者は相應しきと也、願はくは散髮も其一つの手業となれかしとは、兼てより希望したるともあれど、何分立ち續けの商賣にて衛生上特に女性には宜しからずと聞き、左して勸めもせざりき。左れどロンドンにては此事漸やく

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

流行し初め、過る四月チヤンセロイ通りに設けたる理髪店に四人の女散髪師を雇ひし以來、紳士は例の如く、續々として來るよし、評判至つて宜し。我國にも試みたき者也。

○男女共和國

文明國裏、男女同等同權の共和國は何時出來べきか。米國のワイチミン州は、今を距る廿一年前より既に共和國にてありし也、男女共に同樣の投票權を有し、又同權の被撰權を有したり。而して國いよ〳〵富み、歳入年に增加し、女學大に進み、男女の間柄極めて宜し。左れど、之に合衆國三十八聯邦の仲間入を許すべきや否やは、近年の大問題にして、中には此の男女共和の政府あるを以ての故に、多少之を掛念せし人もありしが、過月の國會に於て、いよ〳〵之を聯邦の中に入れ、而も男女共和の制度は毫末も改創せしめざりし也。即ち今や、米國合衆國の一部として、純然たる男女共和の立憲邦あるに至れり。合衆國の憲法に、メンとあるを、男の意義なりと云ひ、否な人を意謂す固より女性を含むと云へるとは、多年の爭論なりしが、今や現に男女共和の制を實行するワイチミンを其一州としたるにより、憲法の意義確定し、米の合衆國は今后追々此のワイチミンの如くならんとするを万國に豫告したるとなれり。

因に云く、過日の時事新報に「役人は皆女子」と題し、米國にて女權の昌んなるは皆な人の知る所なれども殊にカンサス、ワイチミング、ワシントン、デラウエア、モンタナ、アルカンサス、ミシシツピー等の數州にては女子に被撰權を許すが故に撰ばれて議員官吏となるもの少からざる中に去る四月カンサス州エドガートンと稱する一都會にては撰擧の結果全く女子の勝利に歸し府知事にはケレー夫人警察判事にはグリーン夫人等府吏の大概は女子となりしよしと、記したるは、每度女學雜誌にも記載したる通りなるが、此等の地は皆な州〈テリトリー〉と云ひ我國の北海道の如く宛から列物列領の如くにして合衆國に屬し居たるとゆへ男女間の制度も自から自由なりし也。然るに其中の一州、ワイチミンチ純然たる邦(ステート)となし、合衆國聯邦の中に加入したるは、即はち從來之を州として別物にしたるとは同日の待遇よあらず、實際女權論の大勝利を得たると也。

●宮中の音樂

聖上皇后兩陛下には去る一日澳國の音樂博士デルシヤツク東京音樂學校教師ヂツトリヒ澳國音樂師シユーレル女の三名を宮中へ召させられ親しく七番の演奏を聞召されたるがデルシヤツク氏は歐洲に在ても有名の作曲家にして横笛は家に傳はる專門の技なる由是まで各國に遊び帝王の御前に於て吹奏し又新笛を作りて到る處に妙技の聲譽を博し勳章御物など拜受せしと尠からざる由にて當日奏曲の中第七番ファンタシアの曲はデ氏の作にして歐洲各國に名を轟したるは此大作に因ると云ふ宮中の演奏にてはデ氏の吹笛にシユーレル女の洋琴を和し御感斜ならざりしと承る

●女子專門學校

細川篤敬侯(富水戸)には近々女子專門學校を設置されんとし其取調べ方は豐田芙雄子が擔任し居らるゝよし。

●婦人矯風會書記　佐々木ふん子缺員と爲る。

●最山英子及小松崎みさ女　の二女史合力して女子職業學校の類ひを設立せんとし目下盡力中。

●結婚離婚月報　東京市内十五區に於ける本年六月中の結婚數は五百五十四離婚二百四十五。

●和歌山貧民救濟　には石井文子長野かの子發起人となり、吉永まさ、近藤貞、秋山貞、伊藤糸、岩崎みて、山中咲の諸女史贊成人となられたる。

●産婆規則　是迄の產婆規則には不完全の箇所多き爲め改正を加へらるゝよしは豫て聞しが其うち故ふくして產家の招きに應ぜざるもの、即ち他の產婆が受持の家に出產ある時は其の產婆他行せしか或は止むを得ざる事故ありたる爲一時其產家より依賴するも之れに應ぜざる者の如きは相當の處分をせらるゝ抔餘程緻密の點まで入込みたるものなりと云ふ。

●〔廣告〕　左の如き廣告見ゆ、此城のぶ子といへるは伊豫國久米郡川上驛醫師城隆軒氏の息女にして本年十九歲の芳齡を迎へたる女士なりとか。

妾時事に感奮する所あり慷慨悲壯の士と結交せんと欲し不日帝國漫遊の途に上らんとす依て豫め政友諸士に廣告す。　海南女史　城　のぶ

●岩田りう子　とて駿河國の女子にて蠶糸に熱心し富岡製糸場に入りて遂に助手となりたる熱心家の小傳は、日々新聞に二日三日の紙上に見ゆ。

●越後高田女工場　當地には加藤女工場と尾崎女工場との二の工場有之候何れも基督信徒の事業なり尾崎氏は高田基督一致教會執事なり目下加藤女工場は生徒二百名もあり分場二三ヶ所もあり尾崎女工場も生徒百五十名もあり矢張分場二三ヶ所ありてハンケチー繡縫にて女子に適當の事業なり殊に目下地方の狀態貧苦の場合なれば壯年妙齡の女子續々入場せり惜哉加藤女工場の監督は一時の出來心より墮落なし汚名世間に流れ殊に一兩日前其醜聞新聞紙上に顯はれしより地方人士の不名譽を來たしたるに亦横濱の本場よりも々信用されず爲めに生徒は遊び居る有樣尾崎工場は旭の昇るが如き勢にて益々前途望みあり地方人士の信用を博し居候。　(七月末野澤口正路氏通信)

●第十高等女兒小學校　肥前北高來郡尋常諫早女兒小學校の兩校は去る廿三日履修證書卒業證書を授與せられたる例年は七月卅一日頃の擧式なれども當時縣發長崎市に(距離七里)蔓延の摸樣故其筋より諭示の都合もあり斯く早〳〵取行ふる事なりしといふ式了せし後郡長(原田謙吾)より虎列剌病豫防心得といへる一枚摺のものを各生徒に頒布せられしは其御注意之程察せらる。

	卒業生	履修生	病氣落第	合計
高等女生	十四名	五十九名	五名	七十八名
尋常女生	三十一人	百十九名	二十六名	百七十六名
裁縫專門生	七名	廿二名	三名	三十二名
幼稚科生				四十一名

●鳥取基督教會貧兒教育　鳥取基督教會員の或る人々は當時貧民子女の就學せざるものを市役所及び巡査に付て調査し果して親の就學を望み居るや否やを見て實際補助す可きものには授業料及筆紙墨を給與し先日より其れ〳〵小學校へ入校せしめたり而て給與は先つ一ヶ年間とし其他は父兄自ら當て修學せしむる精神ある

ものに限り又大酒賭博放蕩なる親の子は到底及ぶ可らざるとさし只其貧窮の爲め就學せしむる能はざるものゝみに給與し鳥取市中を悉く調査せし都合なり其の子女の父母は涙を垂れて感當するありて思はず天國の喜びを見るを得るとあり然れも就學年齡中の小兒ある貧家は數少なく且つ大酒賭博せざるもの及び志望の美なるものなきより左程多くの子女を給助する能はずさて却て慨歎する人多しさ云ふ。

●米國婦人禁酒會大會　來る十一月アトランタにて開かるゝには、日本現今の禁酒事狀に付き種々の事を、婦人矯風會頭の許へ質問し來れり。

●スタンレー氏　さドロセー、テナント孃さの婚姻は去る七月十二日に擧んぬ、猛虎綿羊を伴ふ。

救濟記事

壹圓　甲府花園町林支裏

五拾錢　無名氏

右五拾錢に添ゆる書狀に、是は消耗費の内を儉約して殘し候まゝ御送り申候

五圓　札幌安息日學校小供

右に添ゆる書狀に、之は小供等が貳錢三錢五錢さ集めたる大切の金にて

三圓　第三回、明治女學校無名氏

計　九圓五拾錢

前號迄　六拾三圓拾九錢五厘

合計　七拾貳圓六拾九錢五厘

右婦人矯風會慈善部へ相渡す

廢娼記事

●橫濱有志者

佐々木栄止郞氏其他卒先し、知事に廢娼の建白書捧呈の爲め同地有志者の署名調印を要めんさて、炎暑中日々奔走盡力せらる。

●山梨縣下

前號に記せし如く、今月末に大演說會を開くに付、弊社の巖本明に應ずるとさ定まり、廿九日夜勝沼驛にて、三十日夜甲府望仙閣にて、九月一日夜市川に於て、廢娼大演說を引續き相催ふすとさ爲りたり。

●岐阜縣下

下原田村女學會員を主さし盡力今に一日も中止せず、此頃ろ……………の二氏上京し、今後運動の折合を爲したり。

●越後高田

櫻井女學校生徒廣瀨梅女史此頃暑中休暇にて高田に歸り、赤心を文章に吐露し、自ら奮つて高田及直江津の遊廓に入り、軒ごさに出入し、人ごさに之を配布す。瀧口正治氏は、女學雜誌に揭載したる「一青年悔改の話し」其他を印刷し、中學校生徒其他に配布す。

●福島磐城靑年會

同會は磐城國磐前郡平町字新川町十七番地に轉居せしよし、同會長宮島爲雄氏より來ふ。

通信

越前國福井

福井縣の教育一斑　同縣の教育は敢て著しく進歩したりさ云ふべからざるも亦た甚だ不振なりさ云ふべきにもあらず最近の調査に據れば縣下小學校の數五百七十生徒の數三万九千五百三十八人、學齡兒童を分つて就學不就學の割合を立つれば就學は全數の四分三厘弱にして不就學は五分七厘强なりし以て其一斑を窺ふに足らん。

女學校　は師範學校の女子部さ高等小學校の女子部さ中學校の女子部さあり。師範學校の女子部は先年設立したれども入學應募生常に僅少にして豫定の數に充たず其實効なきを以て先きに縣會に於て之を全廢し寧ろ全力を中學校女子部に盡すの優れるさの議に決し本年度限り（即ち二十四年三月限り）にて閉鎖する都合なり。現在生徒二十餘名あり、明年閉鎖の際を以て三年科程を終へ卒業せしむべき手筈なり。中學校女子部は現在生徒七十名あり多く福井住民の子弟なり。

福井の醫學　福井市に於て最も奇さすべきは醫學の隆盛なりさす是れ故春嶽老公（舊福井藩主）が大に醫學の擴張に盡力し滯資を投じて外國教師を雇聘し醫學の研究を奬勵したるに出るものにして現に日下醫學社會に於て有名なる橋本、岩佐兩軍醫を始めさし石川、京都、岐阜、大分等の府縣立病院長は何れも本縣出身にして其他學士の稱號を有する本縣出身の國手數十名ありさ云ふ。

福井の貧民救助　近來貧民の困究談は何れも同じ秋の夕暮なれども無暗に金錢米穀を施與せば徒に貧民の獨立心を喪失せしめ依賴心を增長せしむるの虞ありさて福井市會は貧民救助のため同市中道路修繕の一大工事を起し貧民の生活に困難なるものは總て該工事に從棸せしめ老少男女其餘力相當の力役に就かしめ相當の金錢米穀を施與し以て饑餓の憂なからしめたりし此又貧民救助の一使方さ云ふべし。

福井縣の基督敎　同縣下は有名の佛敎地にして眞宗兩本願寺の金庫さも稱すべき土地柄にて容易に基督敎の行はるべしさも思はざりしに該傳道家が非常の熱心さ耐力さは數十名の信者を福井市中に生じ基督敎會所を同市に設くに至り尙各郡村にても追々同信者を生じ來れり。

週報

○官令本週間　法律第五十五、五十六、五十七號勅令第百五十一、五十二、五十三、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十號等を裁可公布せらる

○宮延　三十日天皇陛下海軍大學校へ行幸あらせらる●三十一日天皇陛下內國勸業博覽會へ行幸●四日宮中に於て外國音樂師を召して奏樂を聞召されたり

●政治　廿九日內閣會議開かる●三十日大同派は大同倶樂部自由黨は富士見樓に協議會を開き解黨に決したり●四日內閣に會議西鄕、山田、松方三大臣參集せり。

○新法　日本、都兩新聞は去る二日解停せらる

○雜報　三十一日內國博覽會閉場式執行、同日上野華族會館に於て五爵懇親會を開かる

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

豫約廣告

精神的基督教

●則第二回夏期學校演說丼ニ說教集

右ハ本年七月五日ヨリ十五日ニ至ル迄東京芝白金明治學院內ニ設ケタル夏期學校ニ於ケル日本基督敎諸大家ノ演說說敎ヲ撰擇編纂セシモノナリ●抑モ今回夏期學校ノ主眼トシテ實行貫通セシメタルハ是迄幾多ノ基督敎的大集會ニ於テ企圖セシモノト大ニ異ナルヲ覺ユ●日本全國各地方ヨリ大志ヲ懷ヒテ參集セシ數百ノ青年ヲ以テ基督敎徒或ハ又基督敎ヲ賞賛セル者ト做スノミナラズ兼テ又日本國ノ青年トナシ是レニ授ルニ獨立强固ナル確信ヲ以テシ是レヲ養フニ自ラ成ルノ至誠ヲ以テシ●其期スル所ハ剛毅質直ニシテ學ヲ好ミ世ニ處シ道ヲ行フテ惑フナク謬ルナク我日本ノ邦土ヲシテ救ノ道ニ入ラシムルヲ以テ其天職トナスノ覺悟ヲ礎テシムルニアリ●故ニ篤恭ナル牧師ノ說敎アリ文理ナル學者ノ哲學アリ之ニ加フルニ中正剛直ナル政治家實業家ノ憂國談アリ即チ今日ニ要スル日本國基督教ノ基ヲ開キ日本國基督教青年ナシテ他日世ニ立テ以テ我邦土ニ盡スベキノ道ヲ知ラシムルモノナリ豈亦盛ナラズヤ宜ナルカナ其成効ノ名聲全國青年ノ口ニ嘖々焉タル●書中載スル所校長押川方義先生ノ歐米漫遊感概談アリ海老名彈正先生ノ敬虔論アリ植村正久先生ノ文學說アリ横井時雄先生ノ告青年文アリ金森通倫先生ノ處世談アリ伴直之助先生ノ經濟嘆アリ島田三郎先生ノ政治感アリ文學士大西祝先生ノ倫理編アリ帝國大學講師中島力造先生ノ神論アリドクトル ノックス先生ノ基督教現況說アリドクトル デウヒス先生ノ靈生論アリ各皆嚴正敬虔ナル日本基督敎大家ノ大論說ニシテ先キニ述フル所ハ單ニ其概畧ニ過ギス●今理學士木村駿吉先生ノ編スル所ニシテ弊圃幸ニ之ヲ出版發賣スルノ榮ヲ得タリ苟モ道ニ志ス所ノモノハ敢テ其一本ヲ座右ニ虧クヘカラザル書ナリ

●豫約代金一册廿五錢郵稅ナシ申込期限八月廿五日限リ出版ハ九月中
申込ノ順序ヲ以テ遞送スベシ豫約金ヲ添ヘ左ノ所ヘ申込アルベシ

明治二十三年七月

東京市日本橋區大傳馬町二丁目十六番地書肆

老鶴圃 內田芳兵衛

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員孰れも熟達者長あり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地
東洋英和女學校

廣告

看病法講習生募集

年齢十九年以上三十五年以下ノ夫ナキ健全ノ女子ニシテ家事ニ係累ナク常ニ本院内ニ寄宿シ得ル者三十名入學ヲ許ス志願者ハ本院ニ就キ規則書承知ノ上來ル八月三十日限リ願書差出スベシ但入學中衣食ヲ給シ患者ニ附添ハシムル件ハ手當ヲ給ス又入學試驗科目ハ本院規則等ノ讀方簡易ナル往復文ノ作文幷加減乘除トス

廿三年七月

東京本郷元富士町
醫科大學第一醫院

麻布永坂町一番地
香蘭女學校生徒募集

今般校則を改良し本科豫科小學科の外更に尋常小學科を設け九月十日より敎授す

保險附風琴各種精製廉價販賣仕候

麹町區三番丁四番地
風琴製造所

風琴直し御報知次第直に參上極廉價に修覆可仕候

入學志願者募集

本校例年の通九月中旬より始め各科共試驗の上入學を許す又本期より敎則中時に適せすと認る所は總て改良をなし且從來の學科の上に更に高等專門科を設置し特に校内の明地に於て音樂館を新築し普通學卒業者の爲に高進の路を開かんと方今其計畫中なりき右入學望の方は八月中に申込あるへし規則書は郵券二錢にて送附すへし

神戸諏訪山下
英和女學校

●脚氣患者諸君よ左の○●

廣告を讀んで世に名灸有るを知り玉はんことを

官許專門 天下無比
かつけ根切灸點術

附言輕症は一二度如何ある重病と雖とも四五度限り全治受合○灸治効能男女を論せすかつけは勿論腰より下の冷て痛む病に大効ある事受合論より證據實驗あれ○當時拙家近邊に類似の家號名乘る同業者出來たるに付番地家號篤と御注意の上陸續御來車あれ

京橋區本材木町三丁目二十一番地松屋橋通り
壽福堂

寄宿舍取締及英語講讀女敎師各壹名雇入度御望の方は當校へ御來談あれ

東京市芝區三田功運町三十番地
私立 **普連土女學校**

明治二十三年八月八日印刷
明治二十三年八月九日出版

東京麹町區富士見町二丁目一番地
發行所 **女學雜誌社**

編輯兼發行人 東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豐

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員孰れも熟達善良あり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

看病法講習生募集

年齢十九年以上三十五年以下ノ夫ナキ健全ノ女子ニシテ家事ニ係累ナク常ニ本院内ニ寄宿シ得ル者三十名入學ヲ許ス志願者ハ本院ニ就キ規則書承知ノ上來ル八月三十日限リ願書差出スベシ但入學中衣食ヲ給シ患者ニ附添ハシムル片ハ手當ヲ給ス又入學試驗科目ハ本院規則等ノ讀方簡易ナル往復文ノ作文幷加減乘除トス

東京本郷元富士町

醫科大學第一醫院

廿三年七月

香蘭女學校生徒募集

今般校則を改良し本科豫科小學科の外更に尋常小學科を設け九月十日より敎授す

麻布永坂町一番地

保險附風琴各種精製廉價販賣仕候

風琴直し御報知次第直に參上極廉價に修覆可仕候

麴町區三番丁四番地

風琴製造所

入學志願者募集

本校例年の通九月中旬ゟ始め各科共試驗の上入學を許す又本則ゟ敎則中時に適せすと認る所は總て改良をなし且從來の學科の上に更に高等專門科を設置し特に校内の明地に於て音樂館を新築し普通學卒業者の爲に高進の路を開かんと方今其計畫中なりき右入學望の方は八月中に申込あるへし規則書は郵券二錢にて送附すへし

神戸諏訪山下

英和女學校

○脚氣患者諸君よ左の○

廣告を讀んで世に名灸有るを知り玉はんことを

官許專門 天下無比

かつけ根切灸點術

附言輕症は一二度如何ある重病と雖とも四五度限り全治受合○灸法効能男女を論せずかつけは勿論腰より下の冷て痛む病に大効ある事受合論より證據實驗あれ○當時拙家近邊に類似の家號名乘る同業者出來たるに付番地家號篤と御注意の上陸續御來車あれ

京橋區本材木町三丁目二十一番地松屋橋通り

壽福堂

寄宿舍取締及英語講讀女教師各壹名雇入度御望の方は當校へ御來談あれ

東京市芝區三田功運町三十番地

私立普連土女學校

明治二十三年八月八日印刷
明治二十三年八月九日出版

發行所 東京麴町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豐

遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY